

2023 年度 織田きもの専門学校

学校関係者評価報告書

(令和 5 年度)

評価対象期間

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

織田きもの専門学校

学校関係者評価委員会

1. はじめに

2023年（令和5年）4月1日～2024年（令和6年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告をもとに織田きもの専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会およびきもの業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2024年5月1日（水）15：00～16：30

会 場：織田学園第8校舎 グリーンホール

2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	顧問	有識者委員
上乘 幸喜	株式会社 三松	取締役	関連業界 企業役員
花澤 一美	株式会社 撫松庵	営業職	関連業界 卒業生

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について関連資料を交えて報告と説明を行い、自己評価の評価点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切・未実施…1）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

【1. 教育理念・目標・育成人材像】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	適切
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	3名

各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	

○HP、入学案内にも教育理念・目標に基づいて学校の特色がきちんと表現されている。

○ディスクロージャーがなされているが一定のタイミングでアップデートを行い、より学校の魅力を発信すべきである。

○今後の時代の変化や社会情勢によって改訂をしていく姿勢が素晴らしい。古いしきたりを重んじる業界の中で、これまでの意見も大切でありながらその古い意見に新しい意見が潰れないよう、学生の方々の強い心作りも必要かと思われる。

【2. 学校運営】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	適切 3名
外部関係者の評価（学校関係者評価委員会）を有効に活用できたか。	3	
入学定員は適正に設定されているか。	4	
効果的な教育成果を得ることを目的として教育課程の見直しがされたか。	4	
各種検定の合格率向上のためカリキュラムの再確認及び改訂が行われたか。	3	
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	
コラボ企業や就職先等から教育ニーズを聴取したか。	4	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	

<ご意見・評価等>

○企業人講師による授業や企業とのコラボレーション授業は今後も継続していただきたい。

○業界のニーズに対応したカリキュラムを編成していくために、関係企業との協議の場を定期的に持つことも検討してもらいたい。

○少子高齢化より人口が減少する中、今後増えると予測される留学生の受け入れが必須と考える。また、英語、中国語等話せる教員の確保が重要であると考え。その際には、学内施設の掲示板等でも JR 駅内と同じように多言語掲示も検討する必要がある。

○企業人講師による授業の更なる拡大に共感した。専門学校卒業後の進路は今後の人生に大きく関わってくる問題だと思われる。学校内の世界だけでなく、大半の学生の方々が経験していない学校外の社会人の話を聞く事で視野が広がり、進路の選択肢が増えるかと思われる。

【3. 教育活動】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	適切 3名
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	
教員間で様々な悩みについて共有できる職場環境であったか。	4	
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	

<ご意見・評価等>

- 企業人講師による授業や企業とのコラボレーション授業が行われていることは評価する。
- なお、「授業評価」は、学生が教員の授業に対してアンケートなどで実施し、授業の改善に役立てるものなので、改善の検討をお願いしたい。
- 教育カリキュラムに伝統文化の継承である産地研修を入れてはどうだろうか。携わっている職人の仕事ぶりを目にすることで、きものに対する思い入れがより深まるものと思われる。
- よりよい知識を身につけるには、環境下での人間関係が大きく関わってくる事だと思われるので、教員間で定期的にコミュニケーションを取る機会を設けてるといった環境作りに共感する。
- 多感な年齢の学生の方が多いと思われるので、心情を読み取るのは非常に難しい事ではあるが、先生方をはじめとした大人の後ろ盾は勉強する上で大きな安心感に繋がると考える。

【4. 学修成果】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
生活支援の充実化は図れたか。	4	適切 3名
教育支援の充実化は図れたか。	4	
就職支援の充実化は図れたか。	4	

<ご意見・評価等>

- 経済的困難を抱えている学生に対する相談・支援の体制をより充実させるように努めていただきたい。
- 少人数を活かしたきめ細やかな指導を今後も継続していただきたい。
- 企業と連携して学生が商品の製作・販売を行ったことについて、学生の学習意欲を高める重要な機会だと思うので、こうした機会をできるだけ作っていただきたい。
- 生徒の制作物の販売会を文化祭、企業が主催する販売会等だけでなく、HP に EC 機能を設け販売することで、作り手側である学生にとっては刺激になると考える。
- PR として可能であれば、衣装会社を通じて繋いでいただいた著名人に学校を紹介してもらうのもひとつの手法だと考える。
- 学生の方々が質問しやすい環境作りに努めるとの課題に共感した。学生によっては、質問したくてもできない学生もいると思われるので、直接の会話以外に気軽に質問できるツールがあれば学力アップなどにも繋がると考える。

【5. 学生支援】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	3	適切 3名
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	
卒業生への支援体制はあるか。	3	
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	
保護者との連携は適切だったか。	4	

<ご意見・評価等>

- 退学者が前年より半減したことは評価できる。
- 今後も保護者との連絡、教員間の情報共有、専門機関との連携を図って、退学者を少しでも減らすように努めてもらいたい。
- 今在学生に対するケアが一定の成果を生み退学率が改善したとのこと、今後も継続しさらに退学者がひとりでも少なくなるように成功の積み重ねと実践をお願いしたい。
- メンタルに問題を抱えてる学生が一定数いるとの事だが、社会に出た後も在学中同様、一定数いるのが現状なので非常に難しい問題だと感じる。大変な事ではあるが、そのような学生たちのケアもしながら、日々ご自身で心を保ち勤勉に取り組んでいる学生の方々にも目を向ける環境作りが大切かと思われる。

【6. 教育環境】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	適切 3名
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	

<ご意見・評価等>

- キャリアマップは就職活動のためのツールとして活用されているようなので、卒業生については学園の同窓会組織を作り、同窓会を通して卒業生と学校の連携を図る必要がある。
- また、教育施設・設備については学生の要望も把握しながら充実させていくよう努めてもらいたい。
- 防災備蓄品については学園として備蓄し、合わせて避難訓練も実施してもらいたい。
- 環境を整えるのがゴールではなく利用者がどの程度活用しているかが重要だと考える。
- 記載内容から十分に対応していると感じた。

【7. 学生の受け入れ募集】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
OC 参加者の増加は達成できたか。	2	適切 2名
OC からの取り込み率は向上できたか。	3	
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	
OC 時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	
OC の結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	
SNS 等、学校の認知 PR は適切に行えたか。	4	

<ご意見・評価等>

- HP、SNS での情報発信を工夫して行い、オープンキャンパスも学生の協力を得て実施して効果を上げているのは評価できる。
- 高校訪問を定期的に行い、高校ガイダンス・模擬授業等への参加などを行い、高校教員、高校生への学園の認知を広げる努力をお願いしたい。

○留学生対応は東専各協会主催の相談会への参加、信頼できる日本語学校との連携を検討してみてもどうか。

○学校運営の回答と重複するが、海外からの学生の受け入れが今後の発展につながると思われる。第一歩は、HPの言語変換機能が必要だと感じる。

○着物の専門学校があるということは着物業界内でも認知度が低いと感じる。学生の年齢制限を設けていないのであれば若年層だけでなく、業界内や幅広い年齢に向けてのアプローチも必要かと思われる。

【8. 財務】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	適切
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	3名

<ご意見・評価等>

○入学者を増やすことと退学者を減らすことに教職員が一丸となって取り組むことが求められる。

○学校の強み、魅力を発信し、何よりもオープンキャンパス参加者を増やして学生数を確保することが望まれる。

○学校の立地は利便性により不動産価値が高い状況にある。建て替え等を検討し、一部賃貸するという事も検討すると財務は安定すると思われる。

○支出を抑えることは大切だと思われる。それと同時に学生の方々の学びに影響が出ないようにするのも難しいと思われるので、支出事項を細分化し、分かりやすくして個々の認識を高めるのが良いと考える。

【9. 法令等の遵守】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	適切
自己評価の結果を公開しているか	4	3名

<ご意見・評価等>

○基本情報から自己評価、学校関係者評価、財務情報までHPに公開されていることは適切な運営が為されていると考える。

○できれば過去3年分はアーカイブとして公開できるよう検討していただきたい。

○コンプライアンスだけでなくリスク管理（防災・防犯）も評価項目に加えて良いのではないか。

○広く情報公開されていることに対し風通しの良さを感じた。

【10. 社会貢献・地域貢献】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

○従来から地域や自治体と連携したイベント等に参加しており、今後も積極的な参加を望みたい。

○地域への取り組みだけでなくきもの産地の応援も検討されてはどうか。

○日頃からの地域の方々とのコミュニケーションが大切だと感じた。

【11. 国際交流】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

○若者や外国人にきものへの関心を持ってもらうために、きもの業界とタイアップして伝統的なきもの文化を海外へ発信する取り組みを行っていただきたい。

○既に回答した内容と重複するが、一番のPRツールであるHPの言語変換で、海外から応募者増に繋がるものと思われる。

○外国の方で着物に興味ある方はとても多いと思われるので、日本語学校の生徒の受け入れにはとても共感した。

○その逆で着物科の学生の方々が他国の文化にも触れ合い、感じた事を着物業界に取り込んでくれるサイクルができると尚良いと考える。

5. 総評

○東京では数少ないきものの専門教育を行っている学校としてきものの魅力を積極的に情報発信し、業界と連携して人材育成を図っていただきたい。また、きもの分野を希望する高校生は少ないが、花火等の季節には浴衣姿で街を歩く若者も少なくない。きもののイベントなどに積極的に参加することで、多くの人にきものの魅力を再認識してもらう機会を作り、少しでも入学者確保に繋がるよう努力していただきたい。

○きもの（産地）を通じて本物を知り、次世代のファッション感覚と融合し、独創性のある学生がひとりでも多く生まれることを期待する。

○私が織田きもの専門学校を卒業して15年経つが、在学中に学んだ事が良い経験として仕事にとっても活かされている。自身の学生時代を経て感じる事だが、学生時代は無知で卒業後の進路があまり見えず、漠然とした不安があった。狭い着物業界の中でも就職先の分野が枝分かれしているので、学生の方々がさまざまな業界の方々と触れ合い、体験することで卒業後の進路が開けてくるかと思われる。閉鎖的な雰囲気にならず、時代の流れを読み、広い視野を持ち学べる環境である事を願っている。

織田きもの専門学校
学校関係者評価委員会